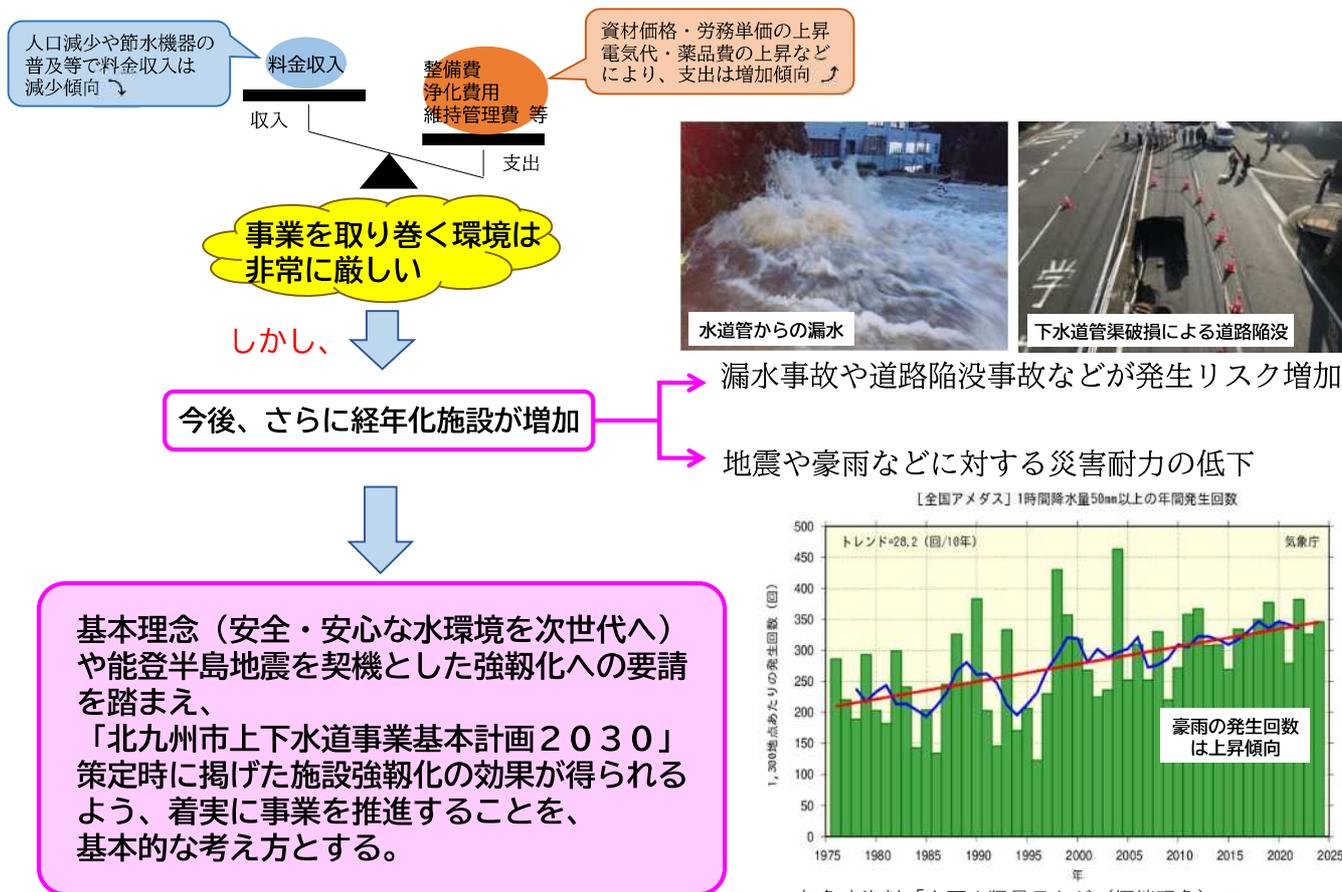


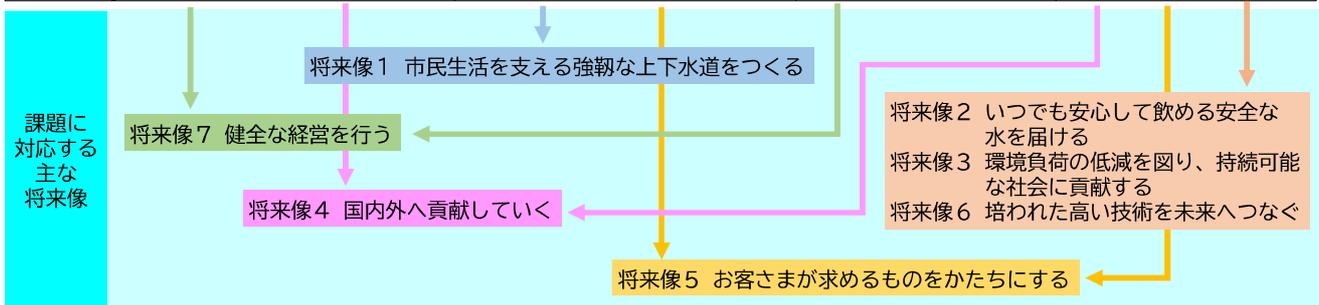
3 次期中期経営計画期間中の事業計画の概要（案）

3 次期計画の事業計画概要（案） (1)基本的な考え方



3 次期計画の事業計画概要（案） (2)各事業における主な課題

	財源	施設の老朽化	費用	その他
水道事業	人口減少や節水機器の普及により、料金収入が年々減少。 近年、累積資金剰余が大幅に減少。	施設の老朽化が進行。（有形固定資産減価償却率が増加。） 水道管の更新等が現中期経営計画に掲げる目標値に未達。	資材価格や労務単価、電気代・薬品費などが上昇し費用が増加。	PFASなど水質への関心 環境への負荷 人材確保・技術継承
水道用水供給事業	水道施設の有効活用に資するが、事業に至るまでの供給先・関係機関等との協議に時間を要する。	〔有形固定資産減価償却率は全国平均を大きく下回っている。〕		
工業用水道事業	近年は、契約水量が増加せず、概ね横ばいで推移。	〔有形固定資産減価償却率は横ばいで推移。〕		
下水道事業	人口減少や節水機器の普及により、下水道使用料収入が年々減少。	施設の老朽化が進行。（有形固定資産減価償却率が増加。） 下水道管渠更新等が現中期経営計画に掲げる目標値に未達。		



これらの課題に対し、基本計画の将来像を実現するため、同計画で掲げた各事業を着実に推進する。

※有形固定資産減価償却率：総務省の経営比較分析による施設の老朽化の度合いを示す指標

3 次期計画の事業計画概要（案） (3)主な取組 ①水道事業 i

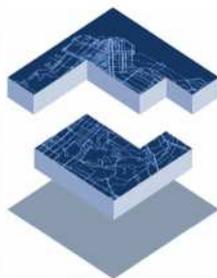
水道管路の改築・更新（耐震化）

R3~7 (見込)	導送水管の更新：4.5km
	配水管の更新：156km
↓	
R8~12 目標	導送水管の更新：4.6km
	配水管の更新：180km



さらに、AIを活用し、
 >管路の劣化状況を予測
 >破損確率の高い管路を更新
 これまで以上の効率化を図る

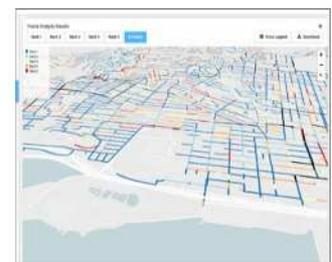
① 水道配管データの抽出(選別)・補正



② 環境データの掛け合わせによるAI/機械学習による計算



③ 破損確率計算結果のマッピング・可視化



※R8~12の目標については、精査中。（以下も同様）

3 次期計画の事業計画概要（案） (3)主な取組 ①水道事業 ii

浄水場の耐震化

R3~7 (見込) 浄水場の耐震化率 : 59.2%



R8~12 目標 浄水場の耐震化率 : 77.5%

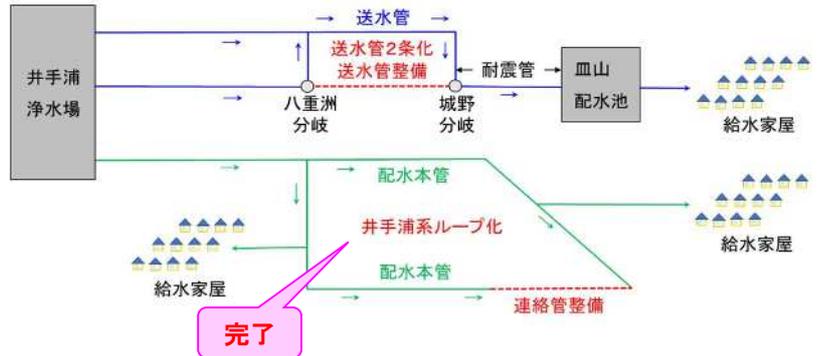


バックアップ機能の強化

R3~7 (見込) 井手浦系配水本管ループ化 : 配水管0.4km整備 (1.2km/1.2km整備)



R8~12 目標 井手浦系配水本管ループ化 : 流量計等整備 (ループ化完了)



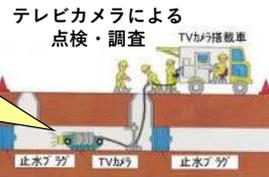
3 次期計画の事業計画概要（案） (3)主な取組 ②下水道事業 i

下水道管渠の点検調査

R3~7 (見込) 下水道管渠の点検調査 : 550km



R8~12 目標 下水道管渠の点検調査 : 900km



その他ドローンも活用 (DXの推進)

リスクの高い管渠の改築・更新 (平均5km/年)



改築・更新

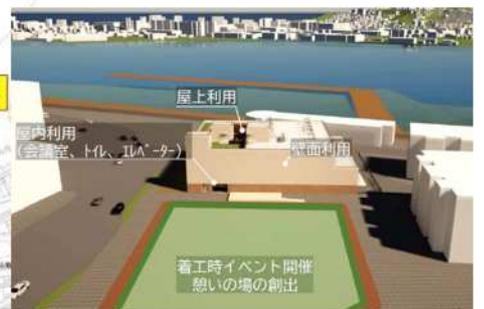


施設規模の最適化

R3~7 (見込) 若松ポンプ場の整備 : ポンプ場の統合に向けた工事着手



R8~12 目標 若松ポンプ場の整備 : 汚水ポンプ場の統合完了



浸水被害の最小化

R3~7
(見込)

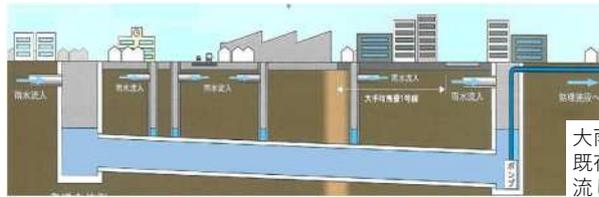
重点整備地区
(16地区)の整備
: 9地区完了



R8~12
目標

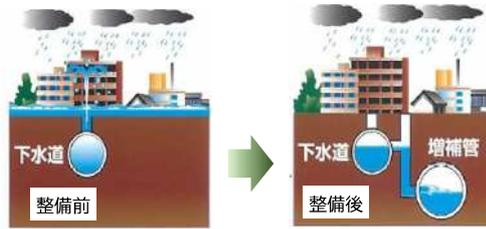
重点整備地区
(16地区)の整備
: 16地区完了

雨水貯留管



大雨が降ったときに、
既存の下水道管では
流しきれない雨水を
一時的に貯留

雨水増補管



大雨が降ったときに、
既存の下水道管では
流しきれない雨水を
直接河川へ排水

ポンプ場の耐震化

R3~7
(見込)

急所施設（ポンプ場）の
耐震化：70.0%（7/10箇所）
重要施設に接続するポンプ場の
耐震化：33.3%（1/3箇所）



R8~12
目標

急所施設（ポンプ場）の
耐震化：100%（10/10箇所）
重要施設に接続するポンプ場の
耐震化：66.7%（2/3箇所）



施工前



施工後(耐震壁新設)

急所施設（ポンプ場）：浄化センター直前の最終合流地点までのポンプ場
重要施設に接続するポンプ場：広域避難地や災害拠点病院などに接続するポンプ場